

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

(四半期調査：平成20年7～9月期)

設備投資：4期連続の減少。来期予定は慎重な姿勢さらに強まる

採算状況：3期連続悪化。6年ぶりの厳しい水準

資金繰り：悪化続く。製造業、小売業の悪化目立つ

雇用人員：不足感緩和。製造業、卸売業で過剰が上回る

《概要》

設備投資：当期(20年7～9月)の設備投資の実施割合は19.4%と平成19年の第Ⅲ四半期の21.7%から4期連続して減少した。来期の設備投資の「実施予定」は当期実績に比べ1.5ポイント減の17.9%と慎重な姿勢がさらに強まった。業種別に設備投資を「実施した」割合をみると、すべての業種で減少した。

採算状況：当期の採算状況を採算DI(「黒字」-「赤字」)でみると、前期に比べ7.7ポイント減の-23.0と3期連続の悪化。平成14年第Ⅲ四半期(-25.3)以来の厳しい水準となった。業種別にみると、製造業が9.9ポイント減と大幅に悪化した。

資金繰り：当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、前期に比べ5.5ポイント減の-33.6と3期連続して悪化。業種別にみると、すべての業種で悪化した。特に製造業、小売業の悪化が目立った。規模別では、小規模、中小規模で厳しい状況が続いている。

雇用人員：当期の雇用状況を雇用人員DI(「不足」-「過剰」)でみると、全体では+2.7と前期に比べ1.9ポイント減少し、3期連続して不足感緩和した。業種別では製造業、卸売業で過剰が上回った。

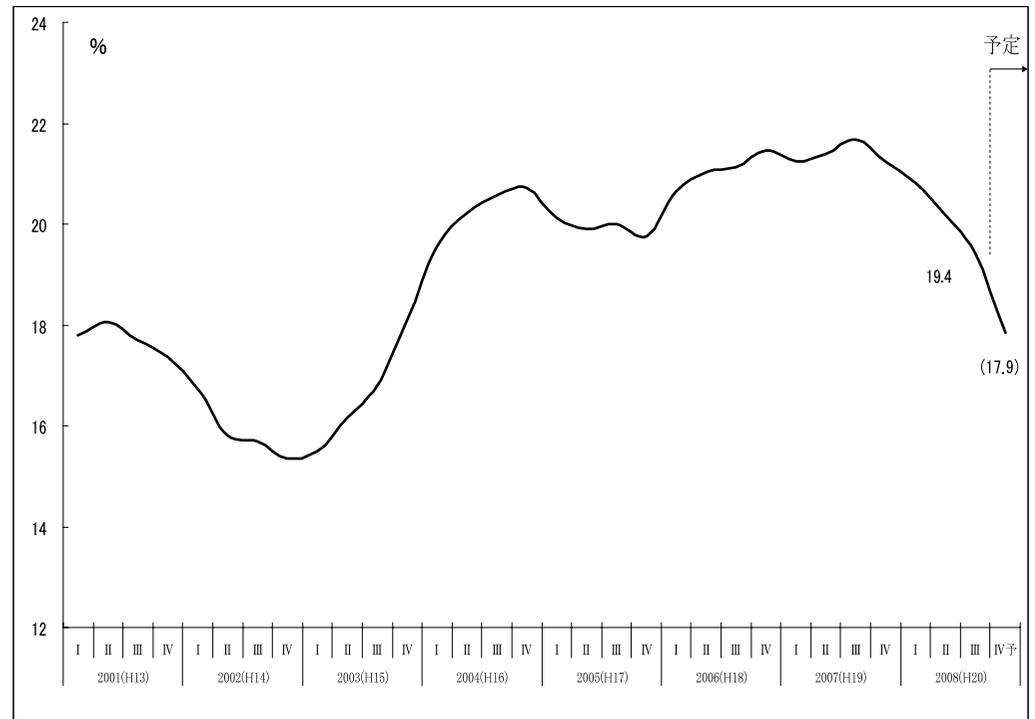
■設備投資■

<全体>

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期(20年7～9月)に設備投資を「実施した」割合は19.4%であった。前期(20年4～6月)の20.2%に比べ、0.8ポイント減少した。設備投資を実施した割合は、19年第Ⅲ四半期(19年7～9月)の21.7%から4期連続の減少となった。

来期(20年10～12月)の設備投資の「実施予定」は17.9%と、当期実績に対し1.5ポイント減少し、慎重な姿勢がさらに強まった。

図表1 設備投資の実施割合(全体) —後方4四半期移動平均—



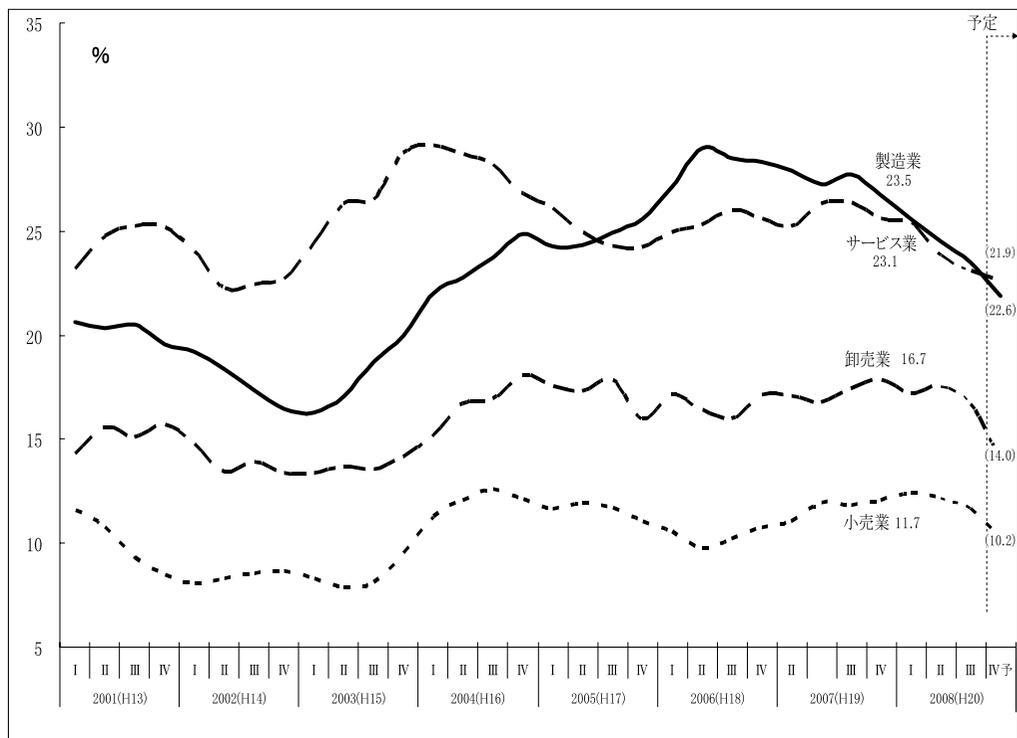
<注>H20年「Ⅳ予」は設備投資の予定

<業種別>

当期に設備投資を「実施した」割合を業種別にみると、すべての業種で減少した。製造業の設備投資の実施割合は23.5%（前期24.5%）と1.0ポイント減少し、19年第Ⅲ四半期の27.7%から4期連続して減少した。卸売業16.7%（同17.6%）、サービス業23.1%（同23.9%）、小売業11.7%（同12.2%）も0.9～0.5ポイント減少した。

来期（20年10～12月）の設備投資の「実施予定」は、4業種とも減少している。「当期実績」よりも減少割合が大きいのは卸売業（14.0%）で2.7ポイント減となっている。製造業（21.9%）は1.6ポイント、小売業（10.2%）も1.5ポイントと、ともに減少している。サービス業（22.6%）は0.5ポイント減となっている。

図表2 設備投資の実施割合（業種別） —後方4四半期移動平均—

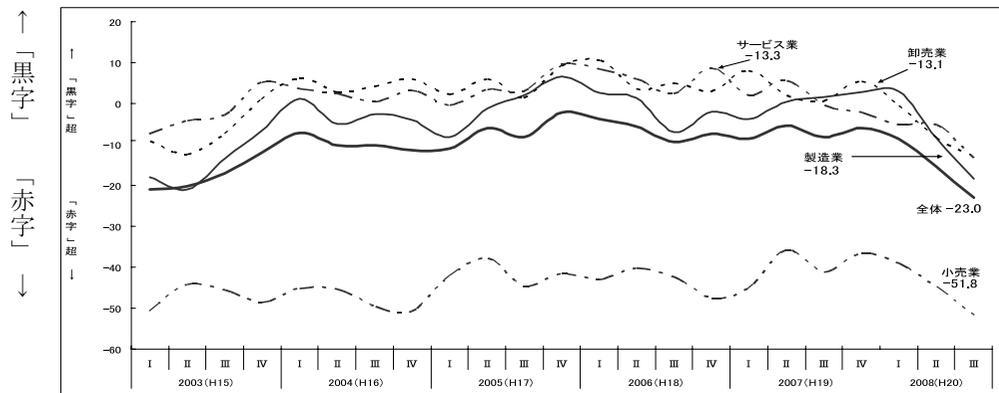


<注>H20年「IV予」は設備投資の予定

■採算状況

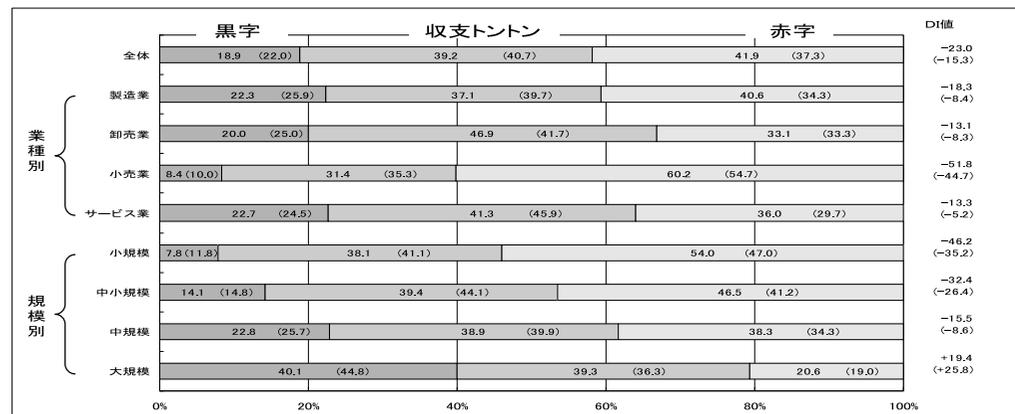
当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）でみると、全体では－23.0と前期に比べ7.7ポイント減少し、3期連続の悪化。平成14年第Ⅲ四半期（－25.3）以来、6年（24四半期）ぶりの厳しい水準となった。

図表3 採算DIの推移



業種別の採算DI値はすべての業種で悪化した。製造業は9.9ポイント減少し－18.3（前期－8.4）となった。サービス業は8.1ポイント減の－13.3、卸売業も4.8ポイント減の－13.1であった。小売業は7.1ポイント減少し、－51.8と厳しい状況が続く。規模別では、大規模のみ＋19.4とプラス水準を維持しているが、前期に比べ6.4ポイント減少した。

図表4 採算状況（業種別・規模別）

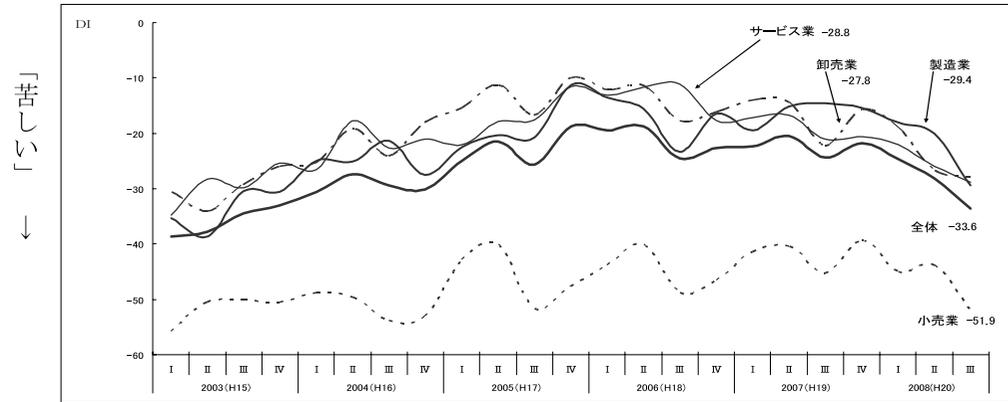


<注>カッコ内は前期（20年4～6月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある

■資金繰り■

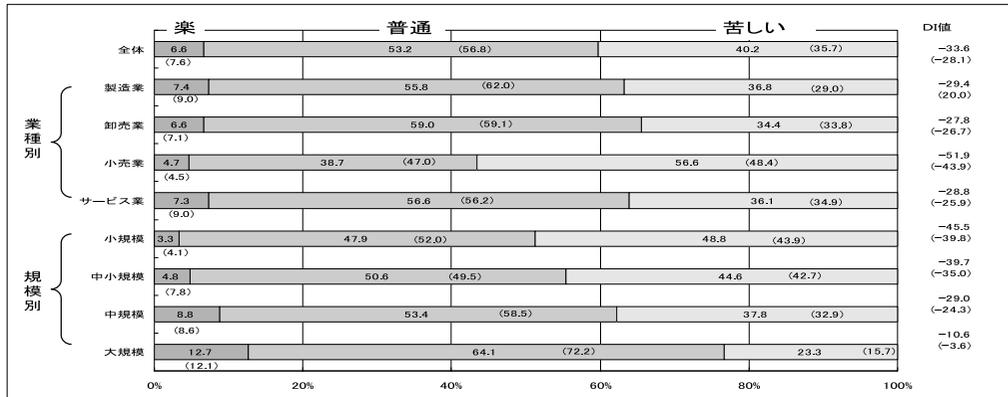
当期の資金繰り状況を資金繰りDI(「楽」-「苦しい」)でみると、前期に比べ5.5ポイント減の-33.6と3期連続して悪化。平成15年第Ⅲ四半期(-34.5)以来、5年(20四半期)ぶりの水準となった。

図表5 資金繰りDIの推移



業種別に資金繰りDI値をみると、すべての業種で悪化した。特に、製造業は9.4ポイント減の-29.4と悪化が目立つ。また、小売業も8.0ポイント減の-51.9と厳しい状況が続く。規模別でみると、すべての規模で悪化しているが、特に、小規模(-45.5)、中小規模(-39.7)は厳しい状況が続いている。

図表6 資金繰り状況 (業種別・規模別)

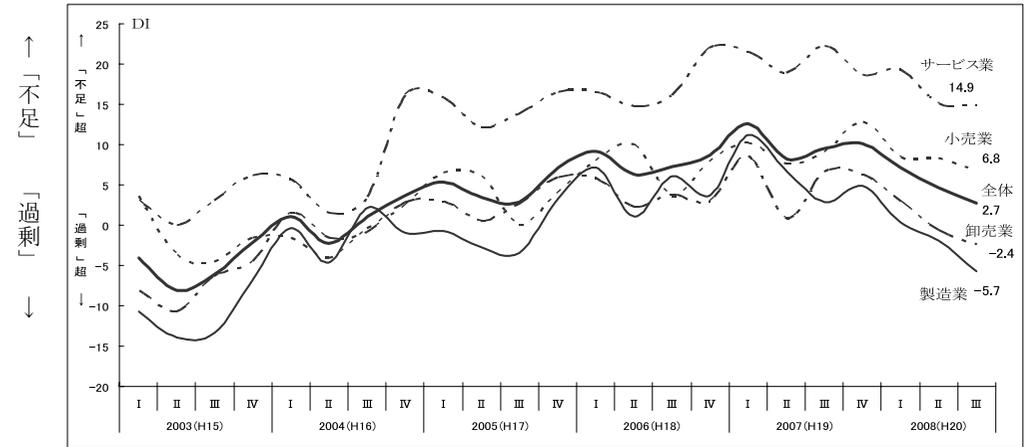


<注>カッコ内は前期(20年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある

■雇用人員■

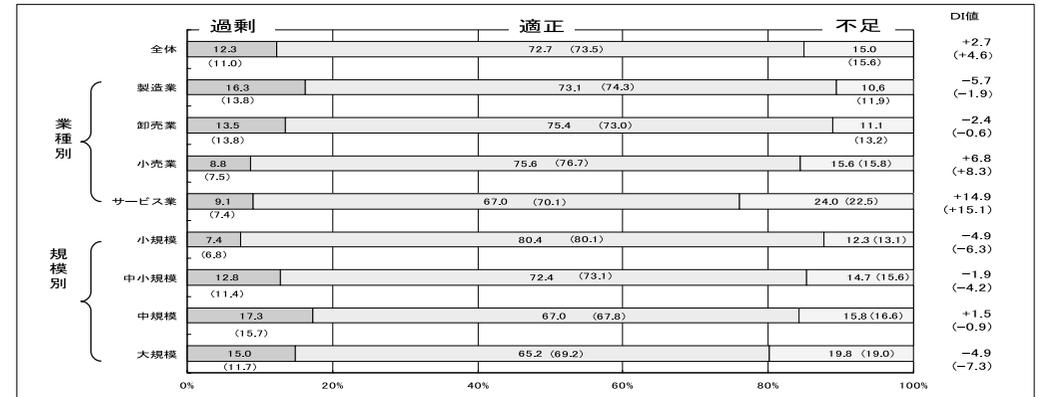
当期の雇用の状況を雇用人員DI(「不足」-「過剰」)でみると、全体では+2.7(前期+4.6)と1.9ポイント減少し、3期連続して不足感は緩和した。

図表7 雇用人員DIの推移



業種別に雇用人員DI値をみると、製造業は3.8ポイント減の-5.7(前期-1.9)と過剰が増してきた。卸売業も1.8ポイント減の-2.4(同-0.6)と過剰が上回った。サービス業は+14.9(同+15.1)と不足感はほぼ横ばい、小売業は+6.8(同+8.3)と不足感はやや緩和した。

図表8 雇用人員の状況 (業種別・規模別)



<注>カッコ内は前期(20年4~6月)の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある